



北海道洞爺湖サミットの開幕までちょうど1年を迎える7月7日、来年のサミットを盛り上げ、地球温暖化などの環境問題への関心を高めようと「北海道洞爺湖サミット1年前セタイベント—美しい星への願い—」が、環境省や北海道が主催して、洞爺湖温泉の洞爺湖ビジターセンターで開かれました。

イベントでは、若林正俊環境相や高橋知事のほか、洞爺湖町と周辺の1市2町の小学生49人が参加し、地球温暖化について学び、短冊にそれぞれの環境について願いを書きました。

環境スクールでは、地球温暖化について専門家から話を聞き、テレビなど活躍するさまざまなクンが、オホーツク海の流水の中を潜ったときの話を紹介し、「温暖化で流水が来なくなれば、プラנקトンがなくなり、プラנקトンを食べる生き物もいなくなる」とわかりやすく説明しました。

そのあと短冊に願いを書き込み、官邸から中継された安倍首相に、代表者が「地球が何年後も自然にかこまれていますように」「いつまでも洞爺湖がきれいでありますように」など読上

観光協会ポイ捨て禁止条例を陳情

洞爺湖観光協会（若狭洋市会長）が、環境問題がメインテーマになる来年のサミット開催に向け、7月5日役場を訪れ、地元温泉街でのたばこのポイ捨てや空き缶の投げ捨てなどを禁止する条例制定の陳情書を長崎町長に手渡しました。

観光協会では、道々登別線沿いなど、観光客が多く訪れる区域を限定して、禁止を含めたより強い規制を要望しています。

長崎町長は「現在町でも、環境基本条例の策定を急いでいる関係もあり、その条例との調整を図りながら前向きに検討したい」と述べました。



陳情書を町長に渡す若狭会長(左)

げました。

安倍首相は「美しい自然、日本の伝統と文化を世界に発信するサミットにしたい」と述べ、二酸化炭素排出量の「一人1日1kg削減」の国民運動を意識して自ら書いた「美しい星に誓う、一人1日1kgの責任実行」という、短冊を披露しました。

また、同日カウントボードが洞爺湖ビジターセンター前に設置。北海道主催で除幕式が行われ、サミットへの気運を盛り上げました。



1年後のサミット成功を願い設置されたカウントダウンボード